

産業発展論（川 端）演習

1 テーマ

世界と日本を動かす産業の構造とダイナミズムを分析する。産業発展論は、産業の生成・発展・再編・衰退を取り扱う科目です。

2 テキスト

*学年の初めには、資本主義とアジア経済、日本経済の在り方を広い視野から学び、それから産業論・企業論に進みます。

これまでのテキストの例)

- ・トマ・ピケティ『21世紀の資本』
- ・リチャード・ボールドウィン『世界経済 大いなる収斂』
- ・梶谷懐『中国経済講義』
- ・遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太（編）『現代アジア経済論』
- ・B. ミラノヴィッチ『資本主義だけ残った』
- ・小野善康『資本主義の方程式』
- ・C. クリステンセンほか『イノベーションの最終解』
- ・東京大学 21 世紀 COE ものづくり経営研究センター編『ものづくり経営学』
- ・橘川武郎ほか編『アジアの企業間競争』
- ・加護野忠男・山田幸三編『日本のビジネス・システム』
- ・塩地洋・田中彰編著『東アジア優位産業』

*現時点では 2023 年度最初のテキストを決定できませんが、候補として以下の本を考えています

- ・河野龍太郎『成長の臨界：「飽和資本主義」はどこへ向かうのか』慶応義塾大学出版会，2022 年。

3 趣 旨

- (1) 企業・業界分析ができるようになろう！
- (2) プレゼンテーションとレポート作成ができるようになろう！
- (3) 自分のゼミ活動を形に残そう！
- (4) 根拠のある自信をもって世界を語れるようになろう！

4 年間計画

- *2月：次年度打ち合わせ。新ゼミ生歓迎会。
- *3月：新ゼミ生は春休みレポート作成。卒業祝賀会。
- *4月：花見。研究ルール研修。レポート討論会。
- *5月：テキスト輪読。4年生卒論（演習論文）構想発表会。
- *6-7月：テキスト輪読。工場見学行き先決定コンペ。3年生第1学期レポート作成。
- *8月初め：現代産業研究会（卒業生と交流）。
- *10-11月：テキスト輪読，工場見学旅行，4年生卒論中間報告会。
- *12月：4年生卒論最終報告会、卒論提出。
- *1月：3年生業界研究報告会。3年生業界研究レポート作成。

5 募集人員 進級者，編入学者等をあわせて7名めど，8名限度とします。

6 参加条件

- (1) 当ゼミは，単位数にふさわしい範囲で，しかし密度高く活動しています。無断欠席をしない，事前に調査・分析をして報告する，レポートや論文を提出する，役割分担を果たすことは，単位を取得するための必要条件です。
- (2) ワード，エクセル，パワーポイント，インターネットメール，オンライン会議システム，Google Driveでのファイル共有をPCから操作できること。
- (3) 川端が担当する基本専門科目「日本経済」も必ず受講してください。講義内容をゼミで使います。
- (4) 当ゼミは経済学科のゼミですが，内容は経済学と経営学を横断的に扱うものです。
- (5) 経済数学は必要ありません。英語を読めることは必要です。

7 選考方法（4月演習（I）A履修開始者）

第1，2次募集では，計7名まで無条件で受け入れます。7名を超えたときだけ選抜を行います。選抜に際しては，志願理由をよく読みます。第3次募集は，2次募集までの参加決定者が4名未満の場合のみ行い，個別に面談して決定します。

8 運営方針

- *ゼミ生が書いたレポートや演習論文を編集して形に残すことを重視します。演習論文は「卒論」と位置づけ，ゼミ誌『研究調査シリーズ』に収録し，現役・卒業生でオンライン共有します。
- *定性的分析とケース・スタディが中心です。ひとつひとつの業界の出来事や企業の行動を，事象の個別性と理論の示す普遍性の統一として理解する方法です。
- *マルクス経済学，近代経済学，経営学のいずれをベースにする人でも参加できます。

- *ゼミ生自身によるゼミ運営を重視します。ゼミにはゼミ代、工場・施設見学会委員、現代産業研究会事務局員、編集委員、懇親会委員などの役割分担があります。
- *当ゼミには、前任教授時代（1963年度ゼミ開始）から50年以上続くOB・OG会があり、年に1回「現代産業研究会」を行っています。
- *年1回、工場・施設見学旅行を行います。

9 担当教員の主要な研究業績

日本を含む東アジアの産業について研究しています。

- *「中国鉄鋼業における過剰能力削減政策—調整プロセスとしての産業政策—」『アジア経営研究』第27号，2021年8月（銀迪氏と共著）。
- *Development of the Vietnamese Iron and Steel Industry Under International Economic Integration, in Hiromi Shioji, Dev Raj Adhikari, Fumio Yoshino & Takabumi Hayashi eds., *Management for Sustainable and Inclusive Development in a Transforming Asia*, Springer, December 2020. (国際経済統合下におけるベトナム鉄鋼業の発展)
- *「現代中国鉄鋼業の生産システム:その独自性と存立根拠」『社会科学』第51巻第1号，同志社大学人文科学研究所，2021年5月（銀迪氏と共著）。
- *「中国経済の『曖昧な制度』と日本経済の『曖昧な制度』 —日本産業論・企業論からの一視点—」『中国経済経営研究』第1巻第1号，2017年3月。
- *「ベトナム鉄鋼業における民間企業の勃興」『アジア経営研究』第22号，2016年。
- *「東北地方における自動車部品調達の構造」『赤門マネジメント・レビュー』第12巻10号，2013年(竹下裕美氏と共著)。
- *「大連市におけるソフトウェア・情報サービス産業の形成」『アジア経営研究』第18号，2012年（張艶氏と共著）。

10 指導教員が薦める本

自分が面白いと思った本を読むのが一番です。紙の本でも電子版でも言いますが、「本を読む」人は当ゼミには向くし、「読まない」人は向きません。当ゼミは本や論文と対話し、読んだモノ通しで対話するゼミだからです。

11 「ゼミ見学」の可否

別途指示します。

12 10月演習(I)A履修開始者に対する特記事項

なし。

13 その他

*教員のウェブサイトを見て、自分の関心と合うかどうか確認してください。メールによる問い合わせも受け付けます。nozomu.kawabata.b1@tohoku.ac.jpです。

*過去のゼミ内容は以下で確認できます。

<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/zemi/index.htm>

*演習論文で研究したい業種・企業は自由に選べます。過去の卒論タイトルは、ウェブサイトの『研究調査シリーズ』紹介ページを見てください。

<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/zemi/series.htm>

*進路実績はメーカー（自動車、石油・ガス、重機、鉄鋼、素材、医薬品、化学、エレクトロニクス）、建設、銀行・証券、サービス（IT、電力、通信、航空、鉄道、不動産、テレビ局、コンサル、情報サービス、人材サービス）、公務員、大学院進学など多岐にわたっています。

*2022年度第1学期のゼミ参加者は17名（4年生9、3年生8）でした。

*公衆衛生環境が改善すれば懇親会を行います。参加と飲酒を強要することはありません。

*「きつい」というほどではありませんが、それなりの真剣さは必要です。「自分の生活は〇〇中心なので、ゼミは適当にやります」という姿勢ではついていけません。

社会・経済に対して疑問を持つ人、学びたい人、書きたい人、語りあいたい人を待っています。